

目 次

プロローグ：危機は打開できるのか？ ————— i

序 章 いま国際社会で何が起きているのか？ ————— 1

[羽場久美子]

1 100～200年に一度の大転換期——いま何が起きているのか？ 1

(1) 先進国危機

(2) 新興国の急成長——東アジア危機と、グローバル・サウスの台頭

(3) 地域紛争の拡大とナショナリズムの成長、宗教対立、テロの激化

2 どうすればよいのか——欧米近代を超えて 3

(1) 世界はどこへ？

(2) 日本はどこへ？

第 I 部 先進国の危機と「自国ファースト」

第 1 章 なぜ移民・難民が世界にあふれているのか？ ————— 8

[羽場久美子]

1 移民問題とは——グローバル化と格差の拡大 8

2 難民問題とは——地域紛争と空爆 9

3 グローバル化は「中産層の貧困化」を生み出しているのか
——ブア・ホワイトの出現 12

4 なぜ「福祉ナショナリズム」が欧州で起きているのか
——包摂から排除へ 14

5 経済と知の時代——アジアの優位か？ 15

6 どうすればよいのか——多様性と共存 16

第 2 章 イギリスはなぜ EU からの離脱を選択したのか？ ————— 20

[若松邦弘]

1 序論——2010年代のイギリス政治 20

- 2 連立政権の誕生 (2010年) 21
 - (1) なぜ過半数を制する党が生じなかったのか
 - (2) なぜ保守・自民の連立となったか
- 3 スコットランド住民投票 (2014年) 23
 - (1) なぜ住民投票は接戦となったか
 - (2) なぜ住民投票は実施されたのか
- 4 保守党単独政権 (2015年) 25
 - (1) なぜ少数政権が予想されたか
 - (2) なぜ保守党は過半数を確保したか
- 5 EU 国民投票 (2016年) 27
 - (1) なぜ離脱票が上回ったか
 - (2) なぜ国民投票は実施されたのか
- 6 保守党少数政権 (2017年) 29
 - (1) なぜ保守党は議席を減らしたのか
 - (2) なぜ突然の総選挙となったのか
- 7 結論——エリートの過信と政治疎外 31

第3章 アメリカ・ファーストの世界とは? ————— 33

[大津留(北川)智恵子]

- 1 トランプ大統領の選出 33
- 2 ヒルブリーの物語 35
- 3 異質なものを排除する壁 39
 - (1) メキシコ国境
 - (2) 中東からの移民・難民
- 4 ポピュリズムの分断線を越えて 44

第4章 ポピュリズム拡大の背景は何か? ————— 46

[水島治郎]

- 1 ポピュリズムとは何だろうか 46
 - (1) ポピュリズムの躍進
 - (2) ポピュリズムの定義
- 2 ポピュリズム伸長の背景 48

- (1) 左右対立の変容
 - (2) 政党と団体の弱体化
 - (3) 日本における組織離れ
 - (4) 脱工業化とグローバル化
- 3 ポピュリズムの国際比較 53
- (1) 「右」と「左」のポピュリズム
 - (2) 西欧型とラテンアメリカ型
 - (3) 日本型——「中」のポピュリズム
 - (4) 「大都市」のポピュリズム
 - (5) 21世紀型政治の出現？

第Ⅱ部 アジアの動きと日本の未来

第5章 日本経済はトランプ政権に立ち向かうことができるのか？——60 [金子 勝]

- 1 外交ができない日本 60
- 2 「紙幣本位制」と国際的政治経済秩序 62
 - (1) バブル循環と中央銀行
 - (2) 中央銀行によるバブル創出へ
 - (3) バブル循環と選挙循環
- 3 アメリカに組み込まれる日本経済 69
 - (1) 「紙幣本位制」と貿易収支の政治的調整
 - (2) 米FRBの正常化と日銀の異常
- 4 トランプ外交の特質 72
 - (1) 貿易戦争
 - (2) 北朝鮮とイランでの対照
 - (3) 戦後秩序への攻撃

第6章 AIIBは中国にとってどのような意味をもつか？——78 [河合正弘]

- 1 はじめに 78
- 2 中国はなぜAIIBを創設したか 79

- 3 AIIB に関する当初の懸念 82
- 4 AIIB の活動と評価 85
 - (1) AIIB の活動
 - (2) AIIB の当面の評価
- 5 日本の対応 90
 - (1) 「質」の高いインフラ支援
 - (2) 「自由で開かれたインド太平洋戦略」
 - (3) 「一帯一路」構想との連携
- 6 おわりに 95

第7章 中国は北朝鮮にどう関与するのか? _____ 97

[朱 建榮]

- 1 長い交流歴史に由来する複雑な相互感情 97
 - (1) 紀元前から密接な関係
 - (2) 朝鮮戦争で今日の対立構図に
- 2 中朝関係の裏表 100
 - (1) 大国のはざまをうまく切り抜ける北朝鮮
 - (2) 鄧小平時代に「特殊関係」が変化
- 3 習近平時代の半島外交 102
 - (1) 北朝鮮の核開発に危機感
 - (2) 「非核化」は中国の優先課題に
- 4 非核化交渉と半島の将来 104
 - (1) 北朝鮮の「170度転換」
 - (2) 中国は半島の将来をどうみているか

第8章 日本はなぜ武器輸出の道を突き進んでいるのか? _____ 108

[望月衣塑子]

- 1 トランプにすり寄る安倍官邸 108
 - (1) 日米首脳会談
 - (2) 伏線としての「デッドライン」
- 2 武器輸出解禁後、増え続ける米国からの武器購入 111
 - (1) 47年ぶりの武器輸出解禁

- (2) 日本の財政を圧迫する FMS 取引
- 3 官邸、各国へ日本の武器売り込み指示 114
 - (1) 哨戒機、輸送機を宣伝
 - (2) 軍事版 ODA
 - (3) 2018年度予算は過去最高の 5 兆1,900億円超
- 4 進む軍学共同、抗う研究者たち 118
 - (1) 軍事研究を後押しする政府
 - (2) 中東ドバイで初の武器展示会
- 5 アメリカの強かさ 121
 - (1) アジア歴訪後、圧力をかけ続けるトランプ大統領
 - (2) トランプ大統領就任以来、ロッキード社の株価は85%増
- 6 日本は米国型の軍産複合体をめざすのか 123

第Ⅲ部 宗教と地域紛争・テロ

第9章 ロシアの正教和解はなぜ実現したのか？————— 126

[下斗米伸夫]

- 1 はじめに 126
- 2 古儀式派とは何か 129
- 3 古儀式派とロシア革命 131
- 4 ソビエト国家と古儀式派 134
- 5 おわりに 136

第10章 「アラブの春」は中東危機を解決したのか？————— 138

[川上泰徳]

- 1 中東危機の「軍事化」と「イスラム化」 138
 - (1) 国家の破綻と IS の出現—— 2 つの危機の要因
 - (2) 中東に戦争をもたらしたブッシュ父子大統領
 - (3) テロ対策を「戦争化」したブッシュ政権
- 2 「イスラム国」とは何か 141
 - (1) アルカイダから「イラク・イスラム国」へ

- (2) イラク戦争後、シーア派もクルド人も「国」志向
- (3) ISとアルカイダの違いとは？

3 アラブの春とイスラム化 144

- (1) 「アラブの春」で若者たちに起こったイスラムへの覚醒
- (2) ムスリム同胞団が勝利した民主的選挙
- (3) 指導者、組織、イデオロギー不在の革命
- (4) 若者たちをとらえたイスラムの論理
- (5) 「アラブの春」の背景に若者人口の増加
- (6) タハリール広場を埋めたイスラム厳格派

4 「アラブの春」をつぶした軍事化 149

- (1) 民主化はつぶされたが、若者の反乱は続く
- (2) ISもまた「アラブの春」の流れの若者の反乱
- (3) 米軍の「対テロ戦争」が民間人の無差別殺戮に
- (4) 軍事一辺倒の「IS制圧」で問題は拡散

第11章 アフリカにおけるテロの脅威にどう対応するのか？—— 154

[遠藤 貢]

1 暴力的過激主義、あるいは「テロリズム」という脅威 154

2 アフリカにおける紛争と紛争主体の変容 155

- (1) レノによる類型
- (2) ストラウスによる類型

3 アフリカにおける紛争対応の様式の変容 159

- (1) アフリカ連合の誕生
- (2) 新たな紛争対応ミッションの運用
- (3) 新たなミッションの課題

4 アフリカにおいて「テロ」を用いる反乱勢力をどうとらえるか 162

エピローグ：未来に向けて—— 165

索引

執筆者紹介

編者紹介